

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	公益財団法人 山形県国際交流協会
実習期間	平成 30年 2月 20日 ~ 平成 30年 2月 24日
学生氏名	近桃花
実習プログラム	相談委員（中国/韓国/フィリピン）との情報交換、日本語教室等について CIR（韓国/アメリカ）との情報交換、多文化共生に係る事業等について、 機関誌発送ラベル貼り、使用済切手仕分け、 JICA ブリーフィング、日本語関係図書整理、DVD「ハーフ」鑑賞、 在外県人会と研修員受入事業について、 話のサロン補助、CIR（韓国/中国）講座補助
学び・気づき (300字程度)	中国人、韓国人、フィリピン人相談員の方々と話す機会があり、学ぶことがたくさんあった。国籍関係なく相談者は女性の方が多く、相談内容は生活一般について多い。山形県に住む海外の女性は国際結婚で来ることが多く、それに伴って子供の教育や、結婚、離婚など家庭内の相談がほとんどであることを知った。私は、家庭内についての相談内容だった場合、相談員はどちらかの味方に付くのではなく、中性的な立場に居なければならないと思った。また、相談だけでなく、ただ話や愚痴を聞いてほしいと言って電話をしてくる方も多いと知った。このような相談であっても、相談者意外と共用できないので、相談員のためのメンタルヘルスの研修もあることを学んだ。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	5日間のインターンシップを通して、在日外国人が抱えている問題について知ることができた。日本語が話せない子供たちをケアするために日本語教室を開いたり、災害時に外国人がスムーズに対応できるように「やさしい日本語」を活用したりするなど、様々な対応をしていることを学んだ。私は、国際交流協会の方々がやっている事業を参考にして、私たちが在日外国人に何ができるのかを調べていきたいと思った。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	県内在住の外国人が住みやすいように日本語学習のサポートや、相談窓口を受け付けているだけでなく、県民と県内在住の外国人との国際交流イベントを企画や、県民を対象にした語学教室などを積極的に開催している。これらを開催しているのは、県民と県内在住の外国人が互いに相手を知ることが目的にしていると感じた。また、山形県国際交流協会働く方々は、アジア圏を中心とした国の出身者も多くいるので、身近に海外の方の考え方や異文化を知ることができると思う。
写真 (1~3点)	

## (別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	公益財団法人山形県国際交流協会
実習期間	平成 30 年 2 月 20 日 ~ 平成 30 年 2 月 24 日
学生氏名	東海林慶太
実習プログラム	サロンの会館準備 使用済み切手の仕分け作業 サロン内の日本語関連図書整理 相談員と情報交換 理事長、常務による企業説明 海外青年隊の講話 イベント、暮らしのサロンの運営補助
学び・気づき (300 字程度)	<p>国際交流協会は山形市と山形県の 2 つが同じ場所にあり、それぞれ担当する内容が異なる。山形県の国際交流協会では山形県全体の管轄を行い、山形市の国際交流協会では山形市に住む人に対応する形式になっているが両機関の間には上下関係は存在しない。サロン内にある日本語関連図書は外国人が日本語を学ぶための本だけでなく、日本人が外国人に日本語を教える時に読む本、世界の文化についての本がそろっている。</p> <p>外国人相談員の方からお話を聞いて学んだことは、相談をしにくる外国人の割合は女性がほぼ占めており言葉が通じないことによるコミュニケーション問題についての問題の相談が多いことだ。言葉が通じないときに母国語で相談できるということが一番の安心感であるため、相談を受ける際はその人の話をまず聴くこと、そして何をその人は求めているのか、何を悩んでいるのかを理解することが必要だ。</p>
今後に向けた 抱負 (200 字程度)	<p>今回の実習を通してまず自分の住む町、県に在住している外国人問題について勉強不足であることを痛感した。実習を通して在住外国人が抱える問題の多くは言葉の違いであり、その多くが女性であるという事実を学ぶまで自分は知らなかった。日本に住む外国人は日本語が話せるという固定概念が自分の中にあっただため、根底にある問題の言語の違いに気付かずに上辺だけの問題ばかりに視点が向いていた。このことから今後自分のゼミで国際関係、文化を学んでいく中今回の実習を通して学んだ物事を掘り下げて考える力を使って考察する力を伸ばしていく。</p>

インターンシップをして気づいた、実習先の魅力  
(300字)

本協会は目的を同じくする国際交流団体や行政機関等との連携と役割分担のもと、日本語教室の運営や相談業務の実施等による在住外国人に対する支援活動だけでなく、県民の国際交流や国際理解を深めるためのアクティビティーの企画上を職員と国際交流サポーター登録制度を活用した各種団体等と一緒に国際交流事業へのサポート活動を行っている。その中で山形に住む外国人の相談窓口があり日々電話や面談が行われている。それだけではなく日本人の私たちが外国の文化について知る機会としてレクリエーション活動や英語、中国語、韓国語、フィリピン語を使って国境を越えて国際交流活動が行われている山形県の国際交流の発信源として機能している企業である。

写真 (1~3点)



(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	公益財団法人 山形県国際交流協会
実習期間	平成 29年 2月 21日 ～ 平成 29年 2月 25日
学生氏名	羽賀 千夏
実習プログラム	2月21日（火） サロンの開館準備、オリエンテーション、講話(理事長・常務)、日本語ボランティア見学、機関誌団体一覧作成、感想記入 2月22日（水） サロン開館準備、日本語レベルチェックテスト準備、サポーター登録更新依頼書発送準備、機関誌発送準備、ミーティング、感想記入 2月23日（木） サロン開館準備、図書館整理、相談窓口研修、JICA ブリーフィング、図書館整理、AIRY ウェブサイト更新、感想記入 2月24日（金） サロン開館準備、備品へのネーム貼り、サポーター研修会同行、感想記入 2月25日（土） サロン開館準備、ラベル作成、国際コーナー準備・補助、感想記入、あいさつ
学び・気づき (300字程度)	この5日間という短いインターンシップではデスクワークからイベントの運営、ミーティングなど幅広く様々な業務を体験することが出来た。また、このインターンシップでは多くの職業の人に関わることができた。どの職業の人でも自分自身の役割をしっかりと持ち、やりがいを感じながら仕事に取り組んでいることを学んだ。アルバイトとは違い朝から1日社会人として働くことで、仕事に対する意識の違いも学ぶことができた。また、様々な国の人と話す機会が多く、いろいろな視点や考え方に触れることができたことで自分の視野も広げることができたと同時に自己分析をすることができ、これからの自分自身の課題を見つけることができた。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	今回のインターンシップでは国際交流協会ということで外国人や職員の方と話す機会が多かったため、コミュニケーション力が問われることが多く、自分の考えを求められる場面があった。その時に十分に自分の意見を言えないときもあった。このことからはっきりと意見をいうことの大切さや学んだことをインプットしてそれを自分で自分の言葉にして思ったことを言うアウトプットすることが自分自身の課題であると思った。5日間という短い期間ではあったが自分自身と向き合い、将来を考えるいい機会になった。このインターンシップで学んだことをこれからの大学生活に生かしていきたい。

インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	国際交流協会ということで多くの人と交流する機会があるため、コミュニケーション力を磨くことが出来る。デスクワークからイベントや研修会の運営などの幅広い業務を体験することが出来る。そのため、自分に合った職業を見つける上で参考になると思う。
写真 (1~3点)	